

1 資料に関する質問、意見等

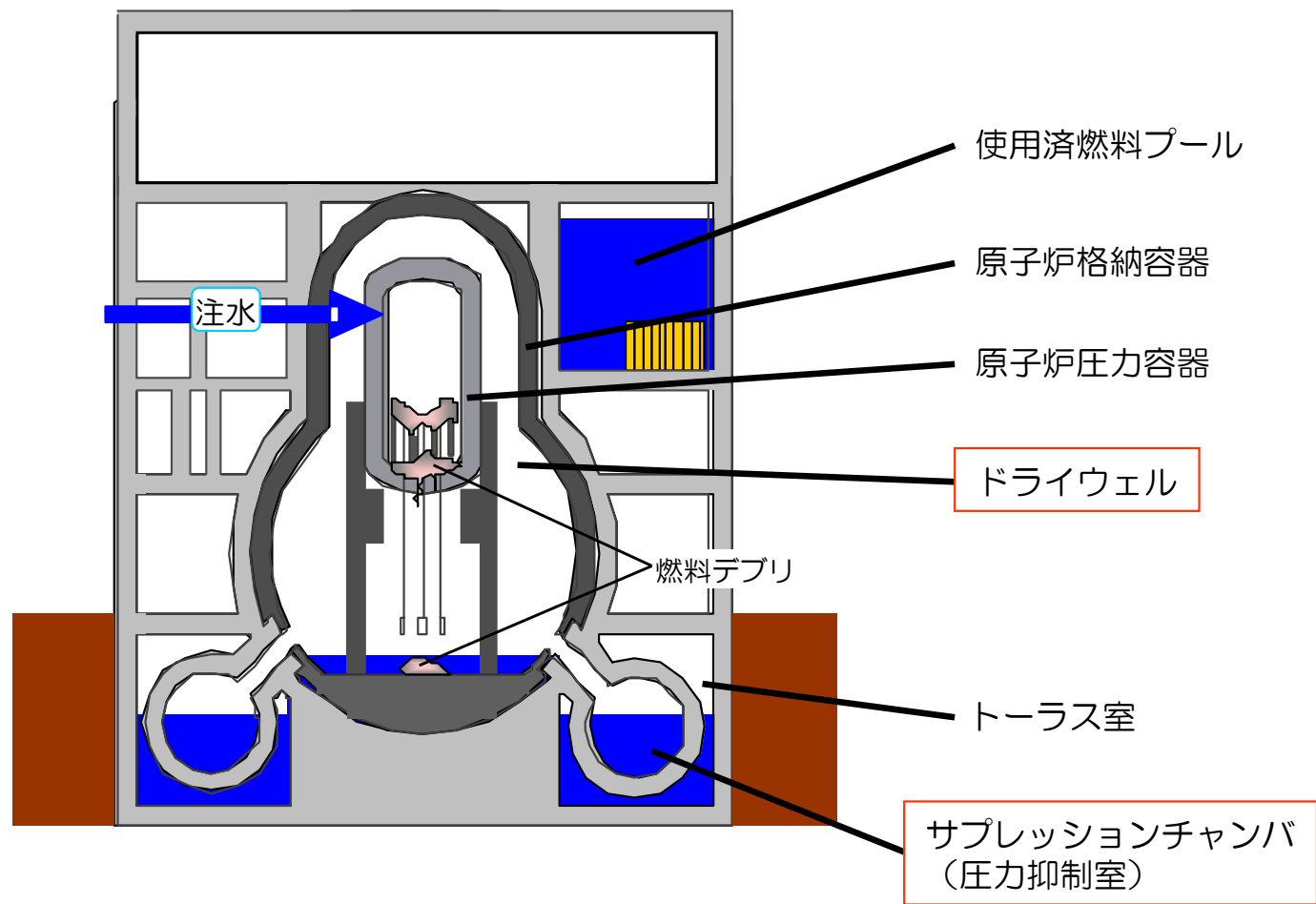
番号	資料名	ページ	質問、意見等	回答															
1	資料1	1	事故前、各号機には何本の燃料が入っていたのか。	<p>震災時（H23.3.11）時点の燃料集合体の数は下記の通りです。 単位：体（燃料集合体の数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>原子炉</th> <th>使用済燃料プール</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号機</td> <td>400</td> <td>392（新燃料：100 使用済：292）</td> </tr> <tr> <td>2号機</td> <td>548</td> <td>615（新燃料：28 使用済：587）</td> </tr> <tr> <td>3号機</td> <td>548</td> <td>566（新燃料：52 使用済：514）</td> </tr> <tr> <td>4号機</td> <td>0</td> <td>1535（新燃料：204 使用済：1331）</td> </tr> </tbody> </table>		原子炉	使用済燃料プール	1号機	400	392（新燃料：100 使用済：292）	2号機	548	615（新燃料：28 使用済：587）	3号機	548	566（新燃料：52 使用済：514）	4号機	0	1535（新燃料：204 使用済：1331）
	原子炉	使用済燃料プール																	
1号機	400	392（新燃料：100 使用済：292）																	
2号機	548	615（新燃料：28 使用済：587）																	
3号機	548	566（新燃料：52 使用済：514）																	
4号機	0	1535（新燃料：204 使用済：1331）																	
2	資料1	8	燃料デブリの取り出しの目途は立っておらず、今後、長期間にわたる注水を続けることとなるが、当初の海水注入による格納容器等への影響をどう評価しているか。	<p>「東京電力株式会社福島第一原子力発電所における信頼性向上対策に係る実施計画（改訂2）」（平成24年9月）において、ご指摘いただいた格納容器の海水による影響を評価しています。概略の評価結果は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象：ドライウエル、サブプレッションチャンバ（別紙：補足説明）</li> <li>・主たる劣化事象：全面腐食</li> <li>・評価結果：ドライウエル内外面からの保守的な腐食速度（0.24～0.33mm/年）に対して余裕が17～30mm程度あり、当面問題になるようなものではありません。今後、調査の進展に合わせて評価を見直して参ります。</li> </ul>															

2 資料以外に関する質問、意見等

番号	質問、意見等	回答
1	<p>約1年前、DARPA Robotics Challenge TRIAL2013が開催され、東大のロボットベンチャー企業「SHAFT」がだんとつの優勝を果たしたのをご存じでしょうか。</p> <p>廃炉に向けた工程には、数々の難題があります。今課題の汚染水対策に目途がつけば、燃料デブリ取り出しに向けて格納容器の現状調査が始まるのでしょうか。その時には上のようなロボットが必要になると思っています。一人です。</p> <p>知見を集めて取り掛かるという割には、必要な技術の発掘には以外と無頓着ではないかと思えます。</p> <p>廃炉に必要な技術と人材が海外に流出することのないように目配り願いたいと思います。</p> <p>廃炉を安全確実に迅速に進める技術の確立は新しい産業を興すものですから。</p> <p>目先のことばかりではなく、先のことにも目配りを願いますと同時に、そうした組織の確立も望んであります。</p>	<p>東京電力福島第一原子力発電所の廃止措置については、放射線量が高く、人が近づくことが困難な環境での作業となるため、様々なロボットが開発・導入されております。燃料デブリ取り出しについても、遠隔除染や格納容器内部調査のためのロボットの開発・実証を進めています。また、燃料デブリ取り出し工法や海水浄化技術等については、国内外へ広く公募を実施し、概念検討や技術検証を進めているところです。</p> <p>このような廃炉に必要な技術の研究開発を効果的・効率的に進めるため、2013年8月、「技術研究組合国際廃炉研究開発機構（IRID）」が経済産業大臣の認可を受け、設立されています。更に2014年8月には「原子力損害賠償・廃炉等支援機構」において、中長期視点から廃炉に必要な研究開発の企画や進捗管理等を行うこととしています。</p>

3 資料の構成に関する意見、要望等

番号	資料名	ページ	質問、意見等	回答
1	資料1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各号機建屋の使用済燃料の数量を記載すべき。</li> <li>建屋外の使用済み燃料プールの容量と保管の状況を記載すべき。</li> <li>燃料デブリ欄に事故前の装填燃料数を記載すべき。</li> </ul>	<p>次回資料に反映いたします。</p>



原子炉建屋断面 (2号機)